

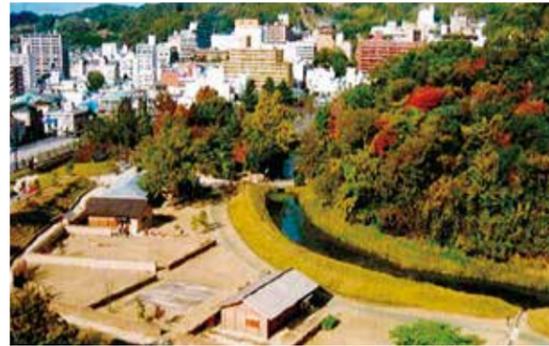
道後地区

人口: 11,142人(高齢化率25.6%)
世帯数: 5,302世帯

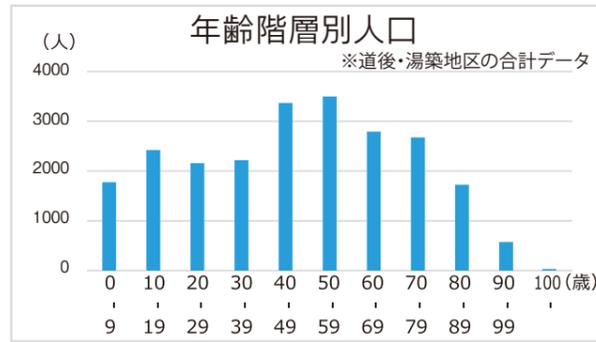


【地区の特色】

道後地区は、政治、経済、文化の中心として古くから発展しており、まさに「道後温泉」の名を冠とした歴史と文化の由緒ある地区名である。道後温泉本館の南東の方角に中世後期に伊予国を支配した河野氏の湯築城跡や子規記念博物館がある道後公園、また、東に四国八十八ヶ所51番札所「石手寺」など観光客や地区住民が訪れる憩いの場となっている。



道後公園 湯築城資料館



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・道後温泉や道後公園などの観光資源が多い ・平坦な土地で、災害も少なく住みやすい ・治安がよい ・中心市街地に近く通勤、通学等に便利である ・駅周辺地域は交通の便がよい ・病院、スーパー、学校など生活関連施設に恵まれており、移動図書館や移動スーパーも来るなど生活に便利である ・転校生が多い地域であるが、子どもたちが溶け込みやすい環境にある ・教育熱心な地区であり、通学路の見守り活動等も盛んである
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者世帯の増加 ・空き家が増えてきている ・自力で移動できない高齢者には、交通に不便な地域が一部ある(石手白石・新石手) ・公民館、集会所の老朽化 ・集会所が少ない(駐車場が少ない) ・マンションなど、町内会に入らない世帯が増加している ・児童が遊べる公園が少ない ・土地の価格が高く、家賃が高い
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・孤立した高齢者の増加 ・高齢者は公民館、分館の階段が困難で利用しにくい(エレベーターがない) ・一部移動手段の不便な地域がある(石手白石・新石手) ・住民の防災意識が低い ・自主防災組織が一部団体に限られており、災害時に連携がとれるか不安がある ・地域行事への参加者が少ない ・役員やお世話役、活動に関わる後継者不足 ・マンションの増加や通勤族が多いため、近所づきあいが希薄化している ・人が集まり、活動する場所が少ない ・地域福祉サービス事業の活動がない

道後地区社会福祉協議会

ささ あい ゆ 支え愛 湯ったり暮らせる 道後の福祉

構成団体	地区民協・町内会連合会・自主防災連合会・小学校・中学校・公民館・支所 高齢クラブ連合会
主な取り組み	活動内容
福祉&防災MAPの作成	地区内の社会資源やバリアフリーの整備状況など福祉分野の情報に加え、防災の視点も取り入れたMAPを作成し、地域住民全戸に配布し、役立ててもらっています。
サロン交流会の開催	毎年1回、サロン代表者・世話人交流会を開催し意見交換を行うなど、3サロン(いきいき2、地域交流1)の支援を継続して行っています。
福祉講座の開催	道後・湯築地区社協が合同で、年度2回、高齢者の生活など福祉全般および防災に関する講演会を開催しています。

道後小3年生道後温泉入浴体験

道後小学校と協働し、毎年10月頃3年生児童を対象に歴史的建造物である道後温泉本館において地域の歴史を学ぶとともに、公衆浴場での入浴体験を通して入浴マナーの向上を図ることを目的として、平成24年度から実施しています。※本館保存修理工事中は飛鳥乃湯泉に場所を変え、コロナ禍に伴い周辺施設の見学のみ実施。



<地区社協が目指すもの>

道後地区は、道後温泉をはじめ子規記念博物館、湯築城跡のある道後公園など類をみない文化財や史跡があります。道後地区社協では「**支え愛 湯ったり暮らせる 道後の福祉**」を基本理念とし、温泉で育まれた温かさと支え合う心を大切にした福祉活動を目指しています。また、地区の福祉課題でもある防災関連についても地区社協はもとより、関係機関・団体との連携・協働を推進していくことにより、地域ぐるみで防災意識の向上を図るとともに、子どもや高齢者、障がい者に優しく暮らしやすいまちづくりを目指していきます。

地区の状況	■地区民協	22名	■町内会・自治会・区長会等	27団体
	民生委員		■高齢クラブ	2クラブ
	主任児童委員		2名	■子ども会
	■まち協の設立	—	■自主防災組織	3組織

歴史的、文化的拠点として観光地、商業地、住宅地として調和のとれた比較的災害の少ない暮らしやすい地区です。閑静な住宅地にはマンションが立ち並び転入者が多い一方で、町内会の未加入率の増加や高齢者世帯の増加などにより地域活動や行事運営に課題を有するなか、地域特有の社会資源を活かし工夫を凝らした取り組みが特徴的といえるでしょう。とりわけ小学生への道後温泉入浴体験の取り組みは、子どもたちに入浴マナーの習得や多世代との交流を「入浴体験」を通して学んでもらい、地域の歴史だけでなく文化や風習への理解を深化させる貴重な機会となっています。こうした経験の蓄積が地域への愛着をさらに育むことでしょう。



